

ながく愛される庁舎 南部町新庁舎の完成

これまでの経緯

新たに建設された南部町新庁舎は、平成28年（2016）6月から7月にかけて、役場庁舎のあり方に関する町民アンケート調査を実施し、その後、建設用地検討委員会、庁内検討プロジェクトチーム、庁内検討会議、建設委員会設立を経て、平成30年（2018）には統合庁舎建設基本計画書を策定しました。

さらに同年5月には基本・実施設計業務プロポーザル選定委員会を設立し、8月に業務の設計者を特定。10月から11月にかけて町民ワークショップを開催するなどして、平成31年（2019）1月に基本設計が、令和元年（2019）5月に実施設計が完成。11月18日には地鎮祭を行って本体工事に入り、令和3年（2021）3月19日に竣工。同年8月2日、無事に開庁の日を迎えました。

建設の理念・方針

基本理念は、『質の高い行政サービスを提供できる 高齢者から子どもまで誰もが安心して集う まちづくりの拠点』とし、基本方針は「1. 気軽に立ち寄り利用しやすい

新庁舎外観とプロムナード／町内にある古民家や南部曲がり屋にみられる漆喰壁と、城下町の近代化により多くみられたレンガ壁をモチーフとした外観デザイン。プロムナード（屋根付通路）は、雨雪から歩行者を守るだけでなく、ベンチを設け、休憩や立ち話など気軽に利用できるようになっている。また、車寄せとして一般車両のほか、路線バスや多目的バスにも対応している



1階窓口／1階には町民の利用頻度の高い窓口を集約し、利便性を高めている



いちよう広場／高さ20mのシンボリックなイチョウの樹は、新庁舎のランドマークにもなっている

「1. 効率的で機能性の高い庁舎」「2. 効率的で機能性の高い庁舎」「3. 環境に配慮した安全な庁舎」「4. 町民が誇りと愛着をもてる庁舎」の4点を掲げています。

また、設計方針は、『地域がつながり、町民がつながる、集う^くながく愛される庁舎^をを目指して』とし、「1. 南部町の風土に根差した町民と共につくる^くながく愛される庁舎^を」「2. コミュニティが生まれる町民広場」「3. ユニバーサルでフレキシブルな庁舎」「4. 人と人をつなぎ、まち育ての起点となる庁舎」の4点を掲げました。

建物の特徴

1 地域に根づく木々を囲んで建つ庁舎

ながくこの地域の人々を見守ってきたトチの樹や桜の並木、高さ20mのシンボリックなイチヨウの樹を残し、庁舎に取り込むことで、この地域の歴史や風土を感じられる庁舎を目指しました。

2 南部町の風土によりそったコミュニティのうまれる庁舎

庁舎と地域交流施設を「いちようロード」でつなぎ、いちよう広場、並木のある町民広場を取り込むことで、様々なアクティビティを創出する空間を目指しています。

さらに、芝生の町民広場の周辺は屋根のあるテラスやプロムナードで囲み、散歩や休憩、軽運動など気軽に利用できる空間としました。

3 人と人をつなぎ、まち育ての起点となる庁舎

庁舎と地域交流施設を70mの「いちようロード」でつなぎ、展示や多様なイベント、町民の情報発信や交流の場としました。2階には開放感のあるガラス張りの会議室、3階には名久井岳を望むことができる広々としたテラスを設け、自然に交流やにぎわいが生まれる空間が随所に設けられました。

4 南部町の歴史や風土を感じられるデザイン

レンガ、南部アカマツ、コンクリートの素材を活かしたデザインで風格をもたせ、南部町の歴史や風土が感じられ、並木やイチヨウの樹と調和する計画としました。

5 負荷低減に配慮した快適な庁舎

高気密、高断熱、高効率な機器を採用、



いちようロード／庁舎と地域交流施設（いちようホール・実習室・町民室・和室など）を結ぶ70mの通路



3階展望テラス／南西方向に名久井岳を望む展望テラスは、町のPRスポットにもなるように計画されている



いちようホール／遮音性に優れた可動間仕切りにより、2分割利用も可能



2階庁議室から下の吹き抜けを望む



3階議場／議場内の腰壁に県産材の南部アカマツを使用

冷暖房負荷の低減を図りました。また、季節ごとの卓越風を考慮した平面形状と開口部の配置を行い、「いちようロード」の上部にはバランス式自然換気窓を設置、煙突効果を利用した自然に空気の流れる空間をつくるほか、執務室には輻射式床冷暖房システムを導入することで、空気のムラ、ドラフト感を低減し、快適な環境づくりを行っています。ほかにも、動線や平面、景観・立面防災、環境配慮など、細部に至るまで緻密な設計・施工がなされました。